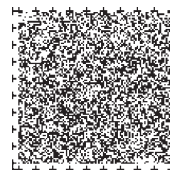


# 平成23年度彩の国ふれあいピック 春季大会に参加して

(第24回県民総合体育大会兼第10回埼玉県障害者スポーツ大会に出場して)



国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局（理療教育・就労支援・自立訓練）の利用者と担当職員（病院・理教）が出場しましたので、参加選手を代表して理療教育の利用者のコメントを紹介します。

今大会に向け、練習スケジュールに基づき、病院の運動療法士及び理療教育体育教官、学院教官、学院学生が一人一人の選手に対し、各種目について指

導を行い、個々の競技向上を行いました。当日、バス配車や現地までの安全な運転など多くの方々にご協力を頂き、ありがとうございました。

今後も利用者の健康や体力維持増進のために、「生きがい」をテーマに利用者へ身体を動かす場の提供をしていきたいと考えていますので、今後ともご協力をお願いします。

## ◎障害者スポーツ大会に参加して

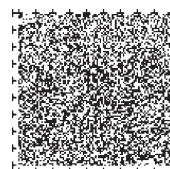
理療教育専門課程2年1組 望月 秀樹  
高等課程2年 沼波 良一  
高等課程2年 高橋 正光

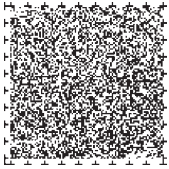
平成23年度「彩の国ふれあいピック春季大会」が、5月15日（日）埼玉県熊谷市にある熊谷スポーツ文化公園にて行われました。国立障害者リハビリテーションセンターからは10名の選手が参加し、陸上競技をはじめ、フリスビー競技に出場しました。本大会は県内最大の障害者スポーツ大会であると同時に10月に山口県で開催される「第11回全国障害者スポーツ大会（おいでませ！山口大会）」の埼玉県代表選考を兼ねており、出場した選手の中から代表選手が選ばれます。センターからは理療教育5名、自立訓練4名、就労移行支援1名が出場しました。その結果、個人成績を大幅に更新する方もいました。

それでも大会出場へ練習強化に取り組む過程では、各人の目標に向かう強い思いからか練習量を急激に引き上げてしまった為、故障が相次ぎ、痛み等により思うような練習が出来ず、一時は出場が危ぶまれた者もいました。当日は、教職員、学院生のご支援をいただいて選手として全員がスタートラインに立つことが出来ました。

私たちは、それぞれの競技で乱舞豪腕を發揮。お互いの力を出し合い、競い合い、チャレンジする喜びを感じることができました。

今回の経験を活かし、今後も練習に取り組んで体力向上に役立てていきたいと思ひます。





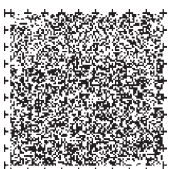
1500m競技



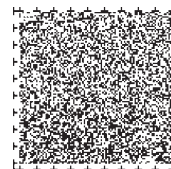
フリスビー競技



スラローム競技



## 病院紹介シリーズ 「臨床検査部門」



臨床検査は、病気の診断や治療、検診に使われる検査の1つで臨床検査技師という国家資格を持った専門職が行っております。血液検査、心電図検査等を含めあまりにも広範囲で一つの言葉で表しにくいので、検査に“臨床”を付けて臨床検査と呼んでおります。診断や治療、あるいは健康管理において大変重要な役割を担っておりますが、診療の前面に出ることはあまりありません。ほとんど患者様の目に触れないところで行っており、縁の下の力持ちとして医療を支えている職種、分野です。

臨床検査技師は血液や尿中の成分を調べる検査、細菌検査、細胞や組織を顕微鏡でみる病理検査、心電図、超音波検査、輸血のため血液型検査や交差適合検査を行うほか、臓器移植の際は臓器適合検査等の実に様々な広範囲の検査に携わっています。仕事内容は、大きく分けて身体に器具を装着して直接情報を得る生理機能検査と血液や胃液、粘液、尿、便等の検体を使って病状を把握する検体検査があり、採血することも許可されております。業務は医師の指示により、採血管を作り、採血し、検査を行い、様々な結果を医師に報告するまでを担っております。

検査結果は、薬物治療、手術、様子観察、薬なら

何を使うか、薬の量はどうか等の治療方針の決定や治療効果の判定に用いられます。また検診では、臨床検査の役割が大きいことはご存じの通りです。一見、健康に見える方の病気の早期発見には臨床検査が有益です。まず大切なことは、検査は受診者自身のために行ったものですから、結果を聞くことは受診者の権利ですので遠慮せず納得いくまで主治医に聞いて下さい。検査結果は病気の診断や治療の推移をみる手段の1つにすぎませんし、天気が日々変わるのと同様に、体の中の状態はたえず変動しています。また、項目によっては採血時間や食事の状態によって大きく変動するものから、ほぼ一定の値を示すものまで様々です。一般的には、基準値内の変動なら気にしなくても良い場合が多いのですが、一回の採血だけでは判断できない場合もあり、その時の検査結果だけで判断したり一喜一憂する必要はなく、上手に検査を利用して下さい。検査結果報告書は大事に保管し、今かかっている病気の管理だけではなく健康管理にも役立てて下さい。

現在、国リハでは臨床検査室は臨床検査技師3名（常勤2名、非常勤1名）で行っている為に数々の可能性を持ちながら機材と人数の関係から残念ながら一部の項目に絞って検査しております。しかし、微力ながら患者様に安心感を持って検査を受けて頂くために、検査の専門家として常に最新の高度な知識や技術を身につけるために学会が行う専門の認定試験、研修会参加などにも積極的にチャレンジし、自己研鑽に努めております。東日本大震災の影響では、一部検査結果に遅延等の影響が出てしまい、今後どのようにすれば影響が最小限になるのか思案中です。今後も時代の流れ、ニーズにあったサービスを患者様に提供できるよう取り組んでいきたいと思っております。



この理科の実験室のような部屋がほとんど患者様の目に触れない臨床検査室です。

